

戦争終結論から見る昨今の国際情勢 （ウクライナ・ガザ・台湾）

防衛省防衛研究所主任研究官

千々和 泰明
ちぢわ やす あき

- * 戦争終結における二つのパターン
- * 「将来の危険」か「現在の犠牲」か
- * ロシア・ウクライナ戦争の終結はどうなるか
- * ソ連・フィンランドの「冬戦争」にみる前例
- * 「凍結された紛争」へ向かうのか
- * イスラエルによる「根本的解決」は可能か
- * アメリカはイラクやアフガニスタンの戦争をどう終結させたか
- * ハマスを支える紛争継続意志の背景
- * 中国・台湾有事の「妥協的和平」とは何か
- * 容易ではない集団的自衛権の行使



山縣 それでは開会いたします。

今日の講師のご紹介に入りたいと思います。
千々和泰明先生は防衛省防衛研究所の主任研究官をなさっております。皆さんご存じだと思いますけれども、第43回の石橋湛山賞の受賞者でございます。以前はその受賞の記念の講演をこの倶楽部でやっていただいたことがあります。受賞作は中公新書の『戦争はいかに終結したか』でございます。

この「戦争はいかに終結したか」という問題はだんだん重要なテーマになってしまっておりまして、ウクライナ・ロシアの戦争があり、イスラエル・ガザの戦争があるということで、大きな戦争が二つも起こっているわけです。この戦争はどうしたら終結できるのか、本当に終結

するのかというふうな気持ちを持って見ていらっしゃる方がたいへん多いと思います。その終結に関することを研究されて、ご本も著されている先生ですので、今日は非常に現代的テーマであります、今起こっている戦争について終結をテーマにしてお話したいだこうと思つて、それで今日来ていただいた次第であります。

皆さんの問題意識とも今の情勢の中で一致すると思つたので、ぜひ先生のお話を参考にし、またいろいろ考えていただければと思つた。

（拍手） それでは先生よろしくお願ひいたします。